

【028】 日本国憲法における基本的人権の規定の趣旨に関する次の記述のうち、妥当なのはどれか。

- 1 基本的人権は、国家権力からの自由のみを国民に与えるものである。
- 2 基本的人権は、憲法によって創設され、未来永劫にわたって国民が
- 3 基本的人権は、現行憲法が存続する限り、すべての国民に与えられ保障される。
- 4 基本的人権が侵害された場合、原則として憲法の規定を根拠として直接損害の賠償を請求する。
- 5 基本的人権は、いかに憲法を改正したとしても、普遍のものとして存続する。

【029】 日本国憲法に定められた基本的人権に関し、最高裁判所の判例に照らして最も妥当なのはどれか。

- 1 憲法上の基本的人権の保障は、権利の性質上、日本国民を対象としていると解されているものを除き、わが国に在留する外国人に対しても等しく及ぶと解すべきであることから、外国人には、在留の許否に関する国の裁量を拘束するまでの保障が与えられている。
- 2 酒税法は、酒類製造を一律に免許の対象とし、免許を受けないで酒類を製造した者を処罰することとしていたが、このような一律の規制は、自己消費目的の酒類製造の自由までも制約し、不合理であることが明白なことから、憲法に違反する。
- 3 教科書検定は、検定により不合格となった図書をそのまま一般図書として発行し、教師、児童、生徒を含む国民一般にこれを発表することを妨げるものではなく、発表禁止目的や発表前の審査などの特質がないから、検閲には当たらず、憲法に違反しない。
- 4 裁判官が一市民として表現の自由を有するのは当然であり、その保障も絶対的なものと解されることから、裁判官の独立および中立・公正の確保であっても、裁判官に対し、積極的な政治運動を禁じる裁判所法の規定は、憲法に違反する。
- 5 薬事法が適正配置規制を定めているのは、薬局等の偏在に伴う過当競争によって不良医薬品が供給される危険性を排除し、特に国民の生命・健康に対する危険を防止するためであることから、この規制は、公共の利益のために必要かつ合理的なものといえることができ、憲法に違反しない。

【030】 日本国憲法が明文化して保障している権利として、妥当でないのはどれか。

- 1 職業選択の自由
- 2 プライバシー権
- 3 表現の自由
- 4 労働基本権
- 5 思想・良心の自由

【028】 5

- 1 これは自由権に関する記述
- 2 人間である以上当然に有する権利  
憲法によって創設されるものではない
- 3 同上
- 4 間接的に適用される

【029】 3

- 1 国の裁量を拘束するまでの保障はない
- 2 違反しない
- 4 違反しない
- 5 違反する

【030】 2

幸福追求権などから解釈上認められているにすぎない